

飼い主のいない猫問題を 行政とボランティアの協働の視点で考える

地域猫活動アドバイザー 石森信雄

猫は人間のパートナー



©ねりまねこ

でも、こんなトラブルが全国各地で

ご飯をあげて何が悪いの？
この子たちは人が捨てた猫の
子孫たちなのよ
かけがえのない命です！



何言ってるの？
命とか、そういう話を
しているのではない
被害をどうにかしろ！



エサやりを巡る裁判や、殺人事件まで発生

こんなトラブルも全国各地で

この子たちが可哀そう
分かりました
私、連れて帰ります



エサやりするな！
エサをやるなら
あんたは飼い主だ
この猫たちを
家に連れていきなさい

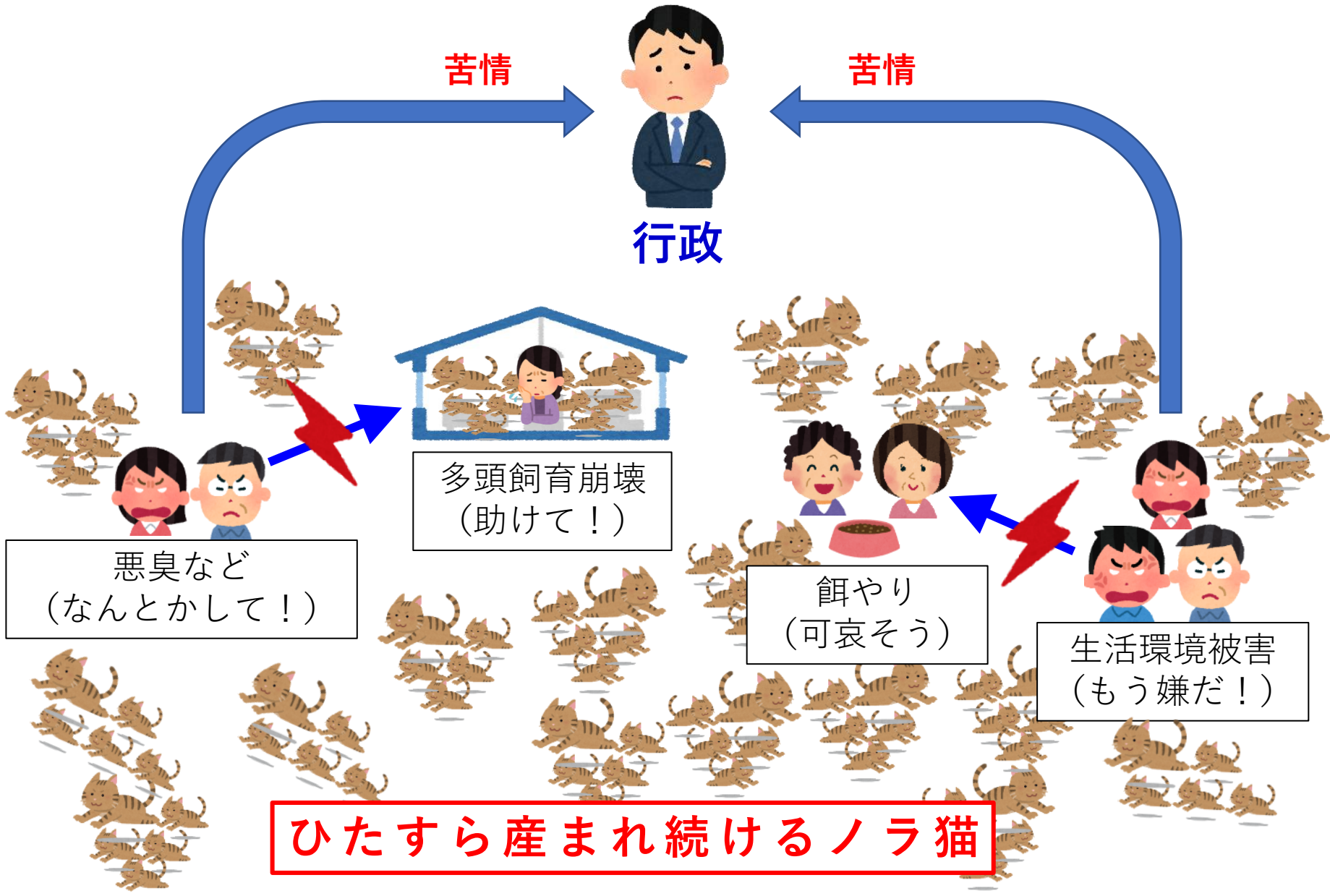


この人の経済力を
超えた飼育

去勢不妊手術ができず
宅内繁殖

多頭飼育崩壊

多すぎるノラ猫は人も猫も不幸にする



猫を守るのか？ それとも排除するのか？ 本当に二者択一しかないのか？

要望「役所は、命を守る活動を支援すべきだ！」



行政

苦情
「餌やり者を
どうにかしろ！」

餌やりトラブル

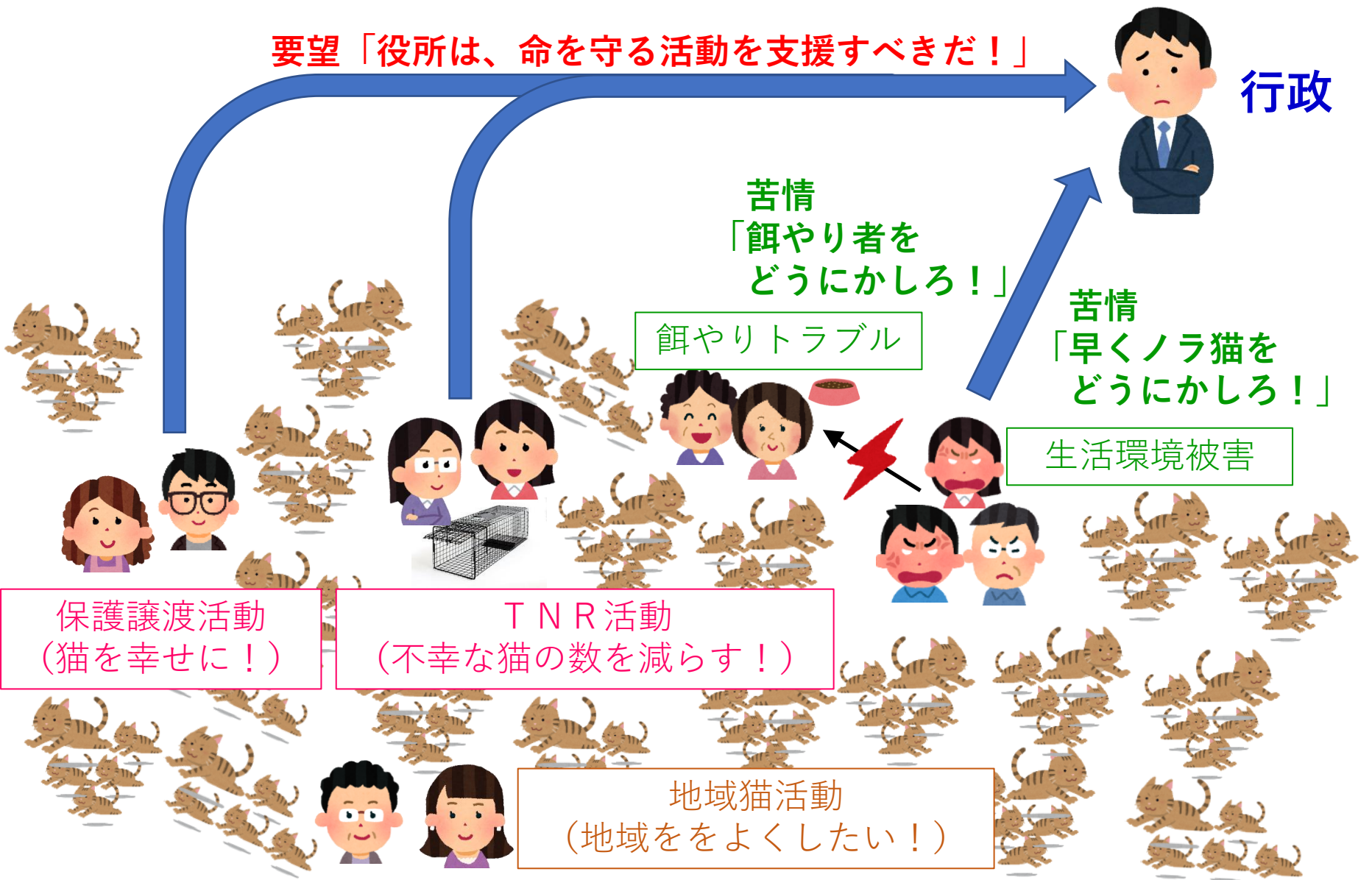
苦情
「早くノラ猫を
どうにかしろ！」

生活環境被害

保護譲渡活動
(猫を幸せに！)

TNR活動
(不幸な猫の数を減らす！)

地域猫活動
(地域ををよくしたい！)



行政とボランティアの立場の違い

猫を守るため、一所懸命に真面目に活動しています。これまで沢山の命を救いました。

命を大切に
する活動が
もっと広まっていくべきです。
良い活動なのだから
行政は支援してほしいです



動物愛護ボランティアは
動物の命を守りたい

予算も職員人件費も
すべて税金なので、
猫を守ることも、
市民の困りごと解決が優先。
ノラ猫による地域の困りごと
をなんとかしないと・・・。
でも、担当職員は数名。
とうてい自分たちだけでは
解決できない・・・。



行政は
市民生活を守るのが仕事

ノラ猫が減るのは、誰にとってもよいこと

猫好き一般市民
(少数派)

可哀そうな猫は
もう生まれなくて
ほしい。



猫苦手な一般市民
(少数派)

我慢できない。
ノラ猫は
消えてくれ。



好きでも嫌いでもない人
(大多数・サイレントマジョリティ)

さすがに
ノラ猫だらけの
この状況はマズイ。



愛護ボランティア

ノラ猫の生活は過酷。
減らすべき。



行政

ノラ猫が減れば、多く
の市民のためになる。



「ノラ猫を減らそう」なら関係者が一致できる

猫好き一般市民
(少数派)



猫苦手な一般市民
(少数派)



好きでも嫌いでもない人
(大多数・サイレントマジョリティ)



愛護ボランティア



行政



★「猫の命」に関する価値観、立場、熱意は人それぞれ。
決して一致することはない。

★「ノラ猫を減らそう」ならば、ほとんどの人の利害に一致する。

どうしてノラ猫が増えるのか

1 産まれる 恐るべき繁殖力

驚異の繁殖力。たった数頭が、3～4年で20～30頭に。

2 集める エサやりが悪いのではなく、エサやりのやり方が悪い

置きっぱなしのエサ（置きエサ）

匂いにつられて近隣の猫がテリトリーを超えてやってくる

- ・ その場に人がいないので、警戒心ゼロで集まり続ける
- ・ 元々いた猫たちがテリトリーを守るために頑張って追い払うが、それでも強い流入猫は定住する
- ・ 元々いた猫と、後から定住した猫とが入り乱れて繁殖

「産まれる」 「集める」 をしっかり防げば頭数は減らせる

ノラ猫の減らし方

1 産まれさせない

猫コロニーごとに、全頭の去勢不妊手術

※ メス1頭でも見逃すと、再繁殖が始まり4～5年で元の頭数に

→事前に徹底リサーチ（個体把握）

→リサーチで見逃した猫が判明したら、素早く対応

2 集めない

置きエサの防止

→地域みんなの目が必要（油断するとすぐに置きエサが始まる）

エサやりは、同じ時間、同じ場所で、猫の食後はすぐに片付ける。

（エサを使った現場管理、生態管理）

→エサの時間にエリア内の猫が1か所に集結するので、
毎日頭数チェックができる

→流入猫がエサの時間に現れるので、素早く対応できる

→毎日のことなので、現場住民でないといけない

ノラ猫対策いろいろ

1 保護譲渡活動

個別のノラ猫を幸せにするための活動。

結果（産まれた）への対応。原因除去（産まれさせない）ではない。

・現状は「保護すべき猫の数」 > 「飼える人の数」

→ 「保護すべき猫の数」が減らない限り、永続可能性が無いのでは？

2 TNR活動 ※Trap Neuter Return（捕獲、去勢不妊手術、現場に戻す）

とにかく去勢不妊手術を進める。「産まれさせない」に特化。

・あまり住民の力を借りない分、猫の取りこぼしが生じやすい。

・「集めない」対策（置きエサ防止）がないので、猫が流入しやすい。

→メス1頭でも現場にいたら（来たら）、再び繁殖がはじまる。

3 地域猫活動

地域住民主体で「産まれさせない」「集めない」をセットで行う。

・広く住民の目で個体把握しながらTNR。猫の取りこぼしが少ない。

・住民によるエサを使った現場管理。流入猫を素早く発見、対応できる。

→着実に頭数が減らせる可能性が高い。

一部のボランティアだけでは手が回らない



一部の凄腕ボランティアが必死で走り回るやり方

- ・繁殖速度に追いつかない
- ・属人的すぎて持続可能性が低い
- ・凄腕ボランティアが疲弊
- ・住民が当事者意識を持たない（市民が育たない）

もっと人手が必要！

一般市民の力でノラ猫問題を解決

小規模ボランティア（地域住民）を数多く

「対策方法を知っている市民が、まちの至る所にいる」状態を目指す



ノラ猫を減らすために 生態を知ろう

生態を知らずにやみくもに対策しても減りません

① 驚異の繁殖力

- ・猫は年に2回出産。1回に4～6頭産む（年に8～12頭）。
- ・子猫は早熟。生後6か月で出産することも珍しくない。

1頭のメスが、年に〔オス2 + メス2〕×2回、計8頭出産すると仮定

0か月時：親オスA + 親メスB = 2頭

6か月目：親メスBが4頭出産

親オスA + 親メスB + 子オスCD + 子メスEF = 計6頭

12か月目：親メスBと子メスEFがそれぞれ出産

親オスA 親メスB	+	}	親メスBの子 = 8頭	}	= 計18頭
			6か月目の子〔子オスCD、子メスEF〕		
			12か月目の子〔子オスGH、子メスIJ〕		
			子メスEFの子 = 8頭		
			子メスEの子〔孫オスKL、孫メスMN〕		
			子メスFの子〔孫オスOP、孫メスQR〕		

実際は子猫の半数以上が1年以内に死亡するので、繁殖爆発は2～3年目に起こる

②意外と狭い行動圏

内枠 = 日常生活圏

外枠 = 猫コロニーAの狩りのテリトリー



③強固なテリトリー意識



④ 食事の習性

猫コロニー A 地域内の住民



- ・ 毎日同じ時間に給餌して片づけると、その時間に来るようになる
- ・ 複数の餌場を持っていて、巡回している

⑤ 寿命が短い

ノラ猫の寿命は、平均4年～5年

10年近く生きる個体もいるが、1年以内に死亡する子猫が多く、平均すれば4年～5年程度とされている。

- ・交通事故（とても多い）
- ・病気（不衛生な環境で生きているので、すぐ病気になる）

外の暮らしは過酷なので、長生きできない（特に子猫）



生態を踏まえたノラ猫対策
地域猫活動の概要

① 対策は、テリトリー単位で

エリアを決めずにやみくもに対策しても、無意味。

② テリトリー内のすべてのノラ猫に去勢不妊手術

短期間に、一気に全頭手術をして、繁殖を止める。

③ 手術済の猫にテリトリーを守らせる

流入猫（未手術）を追い払ってもらうため
手術した猫（特に成猫）は、原則として現場に残す。

④ 適正エサやりで、猫の動向を把握

同じ時間、同じ場所でのエサやりによって、猫の頭数をチェック。新入り猫もすぐ把握でき、手術できる。

エサやりは、元々地域でエサやりしていた人をお願いし、活動者はやらないのが原則。

⑤ 不適切エサやり（置きエサ）防止

エサを置きっぱなしにすると、
臭いにつられて近接地域の未手術猫が流入しやすい。
手術が無駄になる。猫が増える最大の原因。トラブルの元。

⑥ フン被害の低減

被害が酷い場合は、猫トイレを作ると安心。

⑦ 猫の飼い主にルールを徹底

未手術の飼い猫が外に出て繁殖行動→ノラ猫発生

- ・ 去勢不妊手術
- ・ 首輪、迷子札
- ・ 愛があるなら屋内飼育（外に出すと短命）
- ・ 最後の日まで大切に（終生飼養）

何度もチラシを撒き、飼育ルールを徹底的に周知。
いいかげんな飼い方がしにくい街の雰囲気を作る。

⑧ テリトリー内の住民みんなが、 ①～⑦の対策方法を知っていること

テリトリー内で、対策方法知らない人がいると、
対策にほころびが出てしまい、うまくいかない。

- ・ 好き放題にエサを放置する。
- ・ 手術のための捕獲日にエサを与えてしまう。
(猫を空腹にさせないと捕獲できない)
- ・ 捕獲のためのエサやりなのに、「迷惑行為だ」と大騒ぎする人がいて、結果、捕獲ができなくなる。
- ・ 外飼いの飼い主が「うちの猫が勝手に手術された」と大騒ぎ。

対策方法の周知徹底が、成否を分ける。

「私は聞いてない」が一番マズい。失敗の最大要因。

⑨ ノラ猫は寿命が短いので ①～⑧によって4～5年で激減

流入しないように適正コントロールしていれば、
4～5年で頭数が半分以下になることも多い。
そうすると、トラブルは無くなる。

身体の丈夫な個体が10年位生きることがあるが、
頭数が減っていれば、トラブルにならない。

通りすがりの猫にエサを与えて定住させることの
ないよう、地域の皆で気を付ける。

具体的なやり方

事前準備

徹底的に地域広報、住民とのコミュニケーションを取り
対策方法を地域全体に共有することで
対策が無駄なく進むようにする

① 近隣配付用のチラシを作成

XXXX年XX月XX日

ご近隣の皆様へ
飼い主のいない猫対策を始めます
近隣で、飼い主のいない猫（ノラ猫）が増えています
これ以上の繁殖をストップするため、去勢不妊手術を進めます

捕獲し、去勢不妊手術をし、元の場所に戻します（「TNR」といいます）

TNRとは
捕獲して Trap ▶ 不妊手術をし Neuter ▶ 元の場所に戻す Return
手術済の猫は耳先をV字にカットします
耳先カットの猫はもう繁殖しません

効果的に対策を進めていくために、付近の猫の情報を求めています
猫情報をご存知の方、ぜひ下記までご連絡ください（個人情報は厳守します）

対策の効果
ノラ猫は、過酷な環境で生きているため、多くが4～5年の寿命です。
このため、地域の全頭に手術をすれば、着実に頭数が減っていきます。
また、発情期の立き声が無くなり、ケンカや強烈な尿の臭気も減少します。

飼い猫には首輪（名札付き）の装着を
「飼い主の連絡先の付いた首輪をつけていない」猫や、「耳先カットが無い」猫は、未手術のノラ猫と区別がつかず、手術対象とせざるを得ません。
放し飼いや、手術済のノラ猫の情報をお持ちの方は、ご連絡ください。
※ 外に出ている猫は、室内飼育の猫と比べ、圧倒的に短命です。猫は室内飼育をお勧めします。

これ以上猫を集めないエサやりの方法
① 迷惑にならない場所で、② 毎日同じ時間に、③ 多すぎない量のエサを、与え、④ 猫の食後はすぐに片付けて清掃します。
これによって周辺地域から未手術猫が集まってしまう、やう。
、よりスピーディーに、より効果的に、対策が進みも稀いままです。ぜひ、下記までご連絡ください。
チラシなど発行物の印刷、插葉手合い など
いい、XX市行政も推奨しています（別紙をご参照ください）。
ん。また、安易な引き取りも行っておりません。
、メスXXXX円の利用がかかります。
範囲でご寄付をいただくと、大変ありがたく存じます。
取費をお返しします）
イキネコノカイ マルヤマパツコ



チラシのサンプル

山 090-XXXX-XXXX

主旨：ノラ猫対策開始の告知
（被害者に安心してもらう）

- ・ 去勢不妊手術を行う
 - ・ 手術によって数が減る
 - ・ 首輪や迷子札がない猫はノラ猫と判断せざるを得ず手術対象とする
 - ・ 「置きエサ」は厳禁
- NGワード
- ・ 猫にも命があります
 - ・ 小さな命を守りましょう
 - ・ 人と猫の共生するまちにしましょう

徹底的に「ノラ猫対策開始！」を地域広報するのがコツ
※ 最初の段階で、被害者を味方に付ける

② 行政に相談 (情報提供) 「こんなことやります！」

③ 町会に挨拶 行政担当者の同行が望ましい (信用力)
先輩ボラ(団体等)が同行すると心強い

チラシ持参
(行政チラシも)

町会への挨拶は特に重要。後々のトラブル回避のために！

(町会長から「そんなの聞いていない」と苦情を言われないように)

お手伝いいたadaかなくても大丈夫です。

ノラ猫対策のために「こんなことをやっている」

ということを、知っておいていただきたくて、ご挨拶に来ました。

私たちは、餌やりしているのですが、

これ以上増えないように、全頭の去勢不妊手術をします。

お手伝いいたadaかなくても大丈夫です。

ノラ猫対策として「こんなことをやっている」

ということを、知っておいていただきたくて、ご挨拶に来ました。

※ 餌やりしてる場合は隠さず最初に言うこと。後からバレると信用ガタ落ち。

町会・自治会 挨拶のポイント

- ① 町会・自治会に余裕がなさそうな場合は、
「**反対されなきゃOK**」くらいの気持ちで丁度よい。
無理に色々とお願ひしないこと。
- ② チラシの**回覧**と**掲示板貼付**のご協力だけはお願いする。
- ③ **被害対策**であることを強調。
「他自治体で頭数減少の効果が出ている」と言う。
- ④ 愛猫家の場合、とにかく**愛護色を消す**。
「なんか猫大好きな人が来たぞ」と思われぬように!

※ NGワード = 「人と猫が共生する地域にしましょう」

町会・自治会は、皆で助け合って暮らしやすい地域づくりをするための団体。「人と猫の共生」をめざしてはいない。

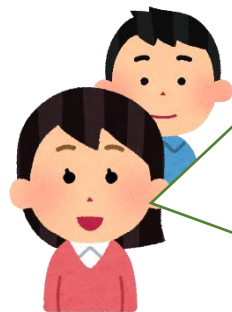
④ チラシを持参して、コアエリアの戸別訪問

被害状況は被害者①さんに
猫の状況はエサやり者②さんに

丁寧に話を聞いて **情報収集**

エサやり者を絶対に責めない。責めると協力が得られない。

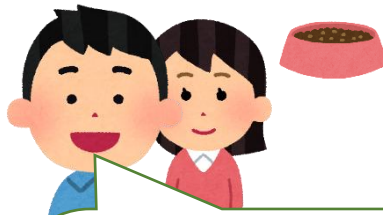
① 猫で困っていると
思われる家



2人組が
ベスト

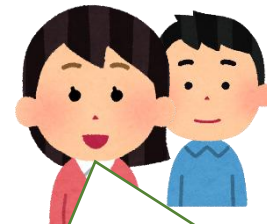
猫でお困り
ですね。
手術して、
増えないように
します。
被害状況を
聞かせていただけ
ますか？

② エサを与えていると
思われる家



エサやりありがとう
ございます！
手術しようと思っ
ているので、
猫の情報を
教えていただけると
うれしいです！

③ どちらかよく
分からない家



猫で
お困りではない
ですか？
これから手術しよう
と思っています。
何か情報があつたらお
教えてください。

コアなエリアの戸別訪問が成否を分ける

戸別訪問でしか、住民ひとりひとりと人間関係を作れない

被害者を味方につける

エサやり者と仲良くなる

どっちでもない人に賛同してもらう

直接訪問して

人間関係を作るしかない

戸別訪問しないと、地域に味方が増えず、活動が孤立化する

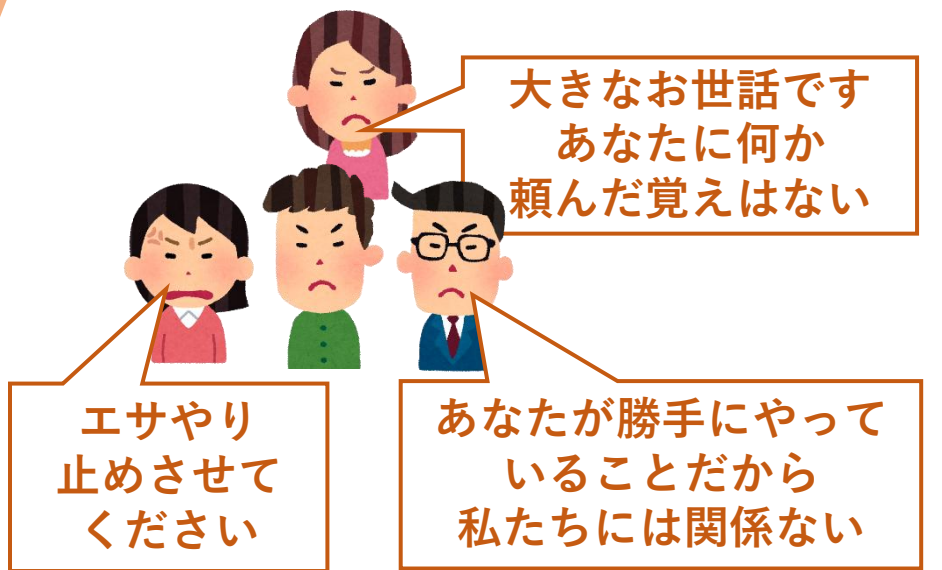
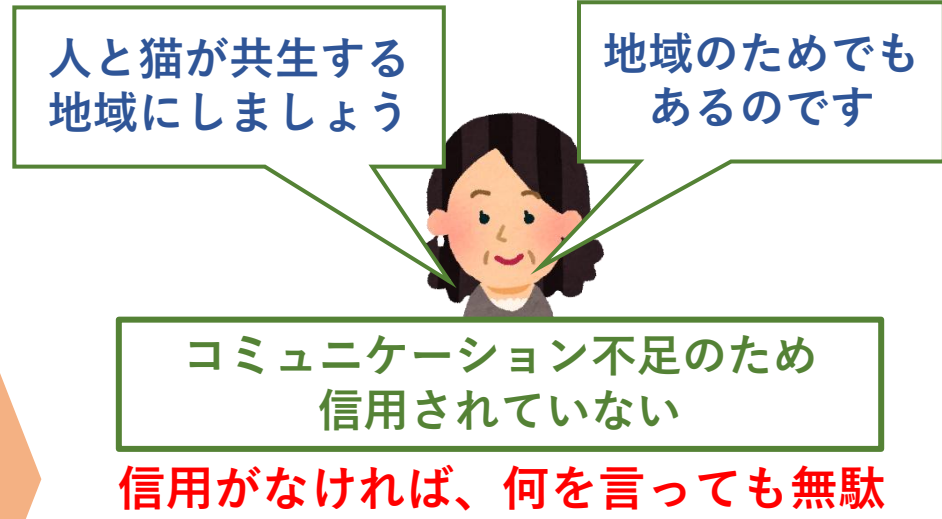
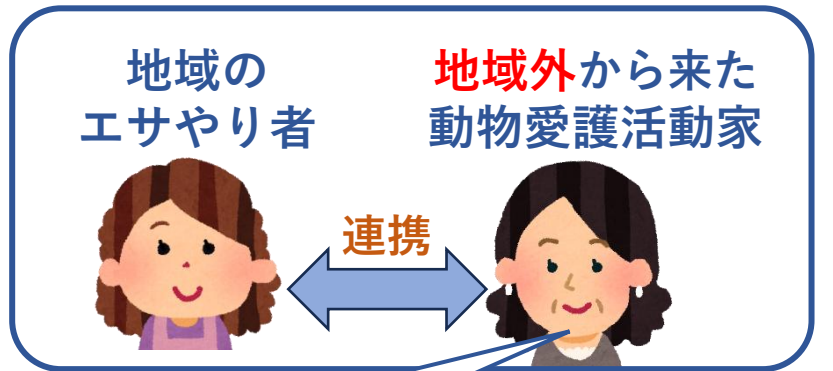
戸別訪問でしか、地域の秘密情報は出てこない

戸別訪問すると、「人に聞かれるとマズイ」と当人が思っている地域の秘密情報を、こっそりと教えてくれる

- ・「実は、裏の●●さんがエサやりしてるのよ、知ってた？」
- ・「以前、△△さんと□□さんが、猫のエサやりを巡って大ゲンカしたのよ。以来、口もきいていないの。」

チラシのポスティングだけだと、重要情報が把握できない

典型的な失敗パターン



⑤ コアなエリア以外にも、徹底的に周知し 情報提供を呼びかける

チラシを
ポスティング



猫コロニーの
中心エリア以外は
ポスティングでOK

チラシを
町会回覧板
で回す



ポスティング済で
あっても、
町会回覧でチラシを
回す。
町会回覧で回ると
信用力アップ

チラシを持って
交番にもひとこと



交番に挨拶しておけば
誰かが110番しても安心。
虐待が発生したときにも
相談できる

「私はそんなの聞いていない」と言われないように！

「私の飼い猫が勝手に手術された」と言われないように！

産まれさせない

⑦ 地域の全頭の去勢不妊手術（必ず全頭）

餌やり者の協力が不可欠。

- ・ 餌やり者は、地域の猫情報を熟知している。
- ・ 猫は餌やり者を信頼している。

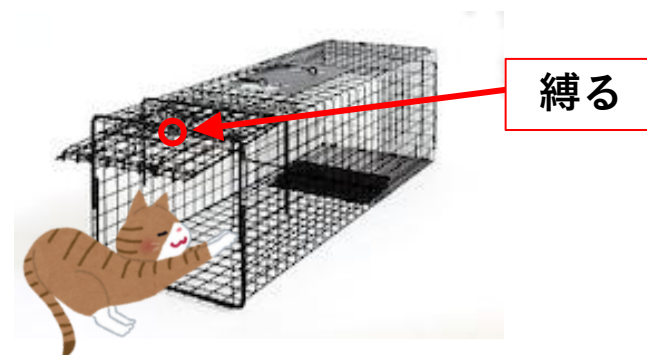
⇒餌やり者と対立したらお話しにならない。

1 餌やり者に協力依頼



- ・ 「捕獲器ならし」をしてもらう
- ・ 捕獲当日は餌やりしないでもらう

2 捕獲器ならし (餌やり者にやってもらう)



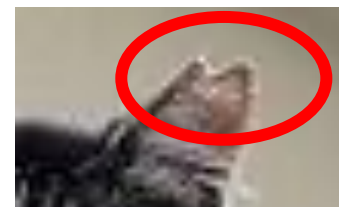
- ・ 捕獲当日と同じように捕獲器をセット
- ・ 入口が閉まらないようにヒモで縛る
- ・ 4～5日程度、捕獲器の中で餌を食べさせ、警戒心を解く

3 捕獲・手術・リターン

- ・ 餌やり現場付近での捕獲が基本（餌でおびき寄せる）
- ・ 捕獲のやり方は、経験者に教えてもらう
- ・ 餌やり者とよく話して捕獲当日は餌やりしないでもらう（空腹でないと、捕獲器に入らない）



- ・ 手術後は耳先をV字カット（手術済の目印）
- ・ 手術後は、元の場所に戻す。



重要!

捕獲日直前に、改めてチラシをポスティングして徹底周知する

「首輪や迷子札がない猫は、ノラ猫と判断せざるを得ず手術対象とします」

「私の飼い猫が勝手に手術された」と言われないように！

⑧ 途中経過や手術完了を、適宜、地域住民に知らせる

チラシを
ポスティング



ただし
被害者や餌やり者
などのキーマンには
手渡しをする

チラシを
町会回覧板で回す



ポスティング済の場合も
町会回覧で回す。
町会回覧で回れば、
「聞いてない」とは
言えない状態になる

チラシを持って
交番にもひとこと



交番とのお付き合いは
とても大切

「私はそんなの聞いていない」と言われないように！

「本当にやっているのか？」と言われないように！

飼い主のいない猫対策 経過報告

飼い主のいない猫（ノラ猫）の被害対策として、
繁殖をストップさせるための去勢不妊手術を進めています

メス3頭、オス2頭の手術が完了しました。予定では、あとメス〇頭、オス〇頭です



手術済の猫は耳先をV字にカットしています。
耳先カットされた猫は一代限りの命ですので、どうか見守って
いただきたいと思います。

猫情報をご提供くださった方、捕獲にご協力いただいた方、
ご寄付いただいた方、皆様、どうもありがとうございました。
残りの猫の手術に向けて、引き続き対策を進めていきます。

ノラ猫は、過酷な環境で生きているため、多くが4～5年の寿命です。
このため、地域の全頭に手術をすれば、着実に頭数が減っていきます。
発情期の泣き声も無くなり、ケンカや強烈な尿の臭気も減少します。

飼い猫には首輪（名札付き）の装着を

「飼い主の連絡先の付いた首輪をつけていない」猫や、「耳先カットが無い」猫は、
未手術のノラ猫と区別がつかず、手術対象とせざるを得ません。
放し飼いや、手術済のノラ猫の情報をお持ちの方は、ご連絡ください。

※ 外に出ている猫は、室内飼育の猫に比べ、圧倒的に短命です。飼い猫は、室内飼育をお勧めします。

猫の被害でお困りの方へ

残念ながら、猫対策に決定打はないのですが、いくつかの具体的な方法をご案
できます。お困りの方はご相談ください。

お手伝いしていただける方

皆さまのご協力によって、よりスピーディーに、より効果的に、対策が進みま
どのような些細なことでも構いません。ぜひ、下記までご連絡ください。

例：捕獲した猫の病院への搬送、チラシなど発行物の印刷、捕獲手伝い など



チラシのサンプル

飼い主のいない猫 全頭手術完了

●●●地区の飼い主のいない猫（ノラ猫）の被害対策として、
繁殖をストップさせるための去勢不妊手術をしました

現時点での全頭手術が完了しました。メス〇頭、オス〇頭でした



猫情報をご提供くださった方、
捕獲にご協力いただいた方、
ご寄付いただいた方、
皆様、どうもありがとう
ございました。



手術済の猫は耳先をV字にカットしています。
耳先カットされた猫は一代限りの命ですので、どうか見守って
いただきたいと思います。

ノラ猫は、過酷な環境で生きているため、多くが4～5年の寿命です。
このため、地域の全頭に手術をすれば、着実に頭数が減っていきます。
発情期の泣き声も無くなり、ケンカや強烈な尿の臭気も減少します。

エサやりのマナー ～これ以上ノラ猫が集まらないように～

【新たな猫を寄り付かせず、頭数管理していくための、マナー6点セット】

① 耳先カットの猫だけに、② 迷惑にならない場所で、③ 毎日同じ時間に、
すぎない量のエサを、⑤ 小皿で、出来るだけ頭数分に小分けして与え、
の食後はすぐに片付けて清掃します。

エサを置っぱなしにしていた場合も、エサの時間を決めてすぐに片付けるようにすると、
うちに、ほとんどの猫がちゃんとその時間に集まるようになります。

【されていない猫には、エサを与えないで】

からやって来た猫は、元の地域にちゃんとエサ場がありますので、エサを与える
りません。

【置ると、対策が無に帰します】

④ いたまま放置すると、臭いにつられて周辺地域から未手術猫が集まってしまい、
?の手術が無駄になります。また、カラスや虫が集まり不潔です。

⑥ ① マナーを守りましょう。

裏面があります

集めない

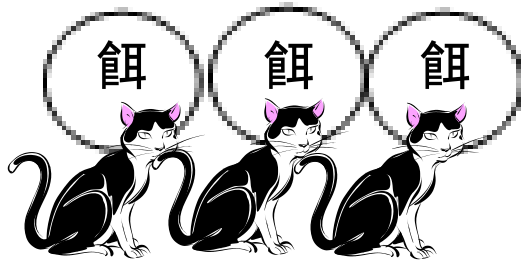
⑨ 適正餌やりで猫を定点管理

地域の餌やり者に定点管理してもらう

毎日同じ時間、
同じ場所で給餌（定点定時）

小皿にできるだけ
小分けにする（＝時間短縮）

すぐに片づけ清掃



管理対象の猫が集結



食事終了

普段は餌がないので
餌の時間以外は
お気に入りの場所に
姿を消す



近隣の猫
（隠れて様子を見ている）

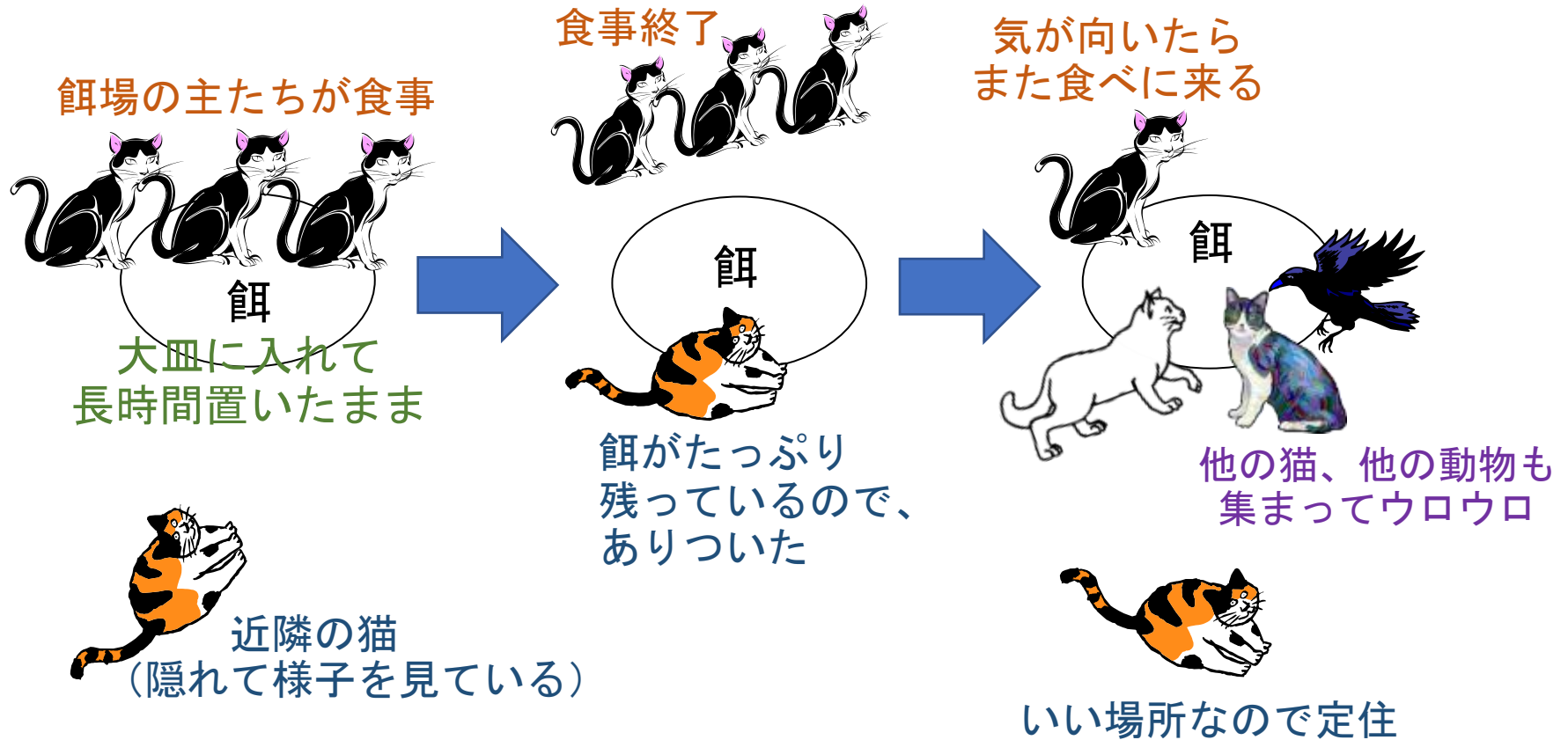
食べられないので
自分の場所に帰る



- ・ **餌の時間に対象猫が集結**するので、**簡単に個体把握**ができる。
- ・ 捕獲は、餌の時間に行えばよいので、効率的。
- ・ 把握している猫全頭の手術が終われば、もう増えない。
- ・ **新入り猫をすぐに発見**できる。

⑩ 不適切餌やり（置き餌）の防止

餌の放置 = 〔頭数が減らない + 不衛生〕 = トラブルの根源

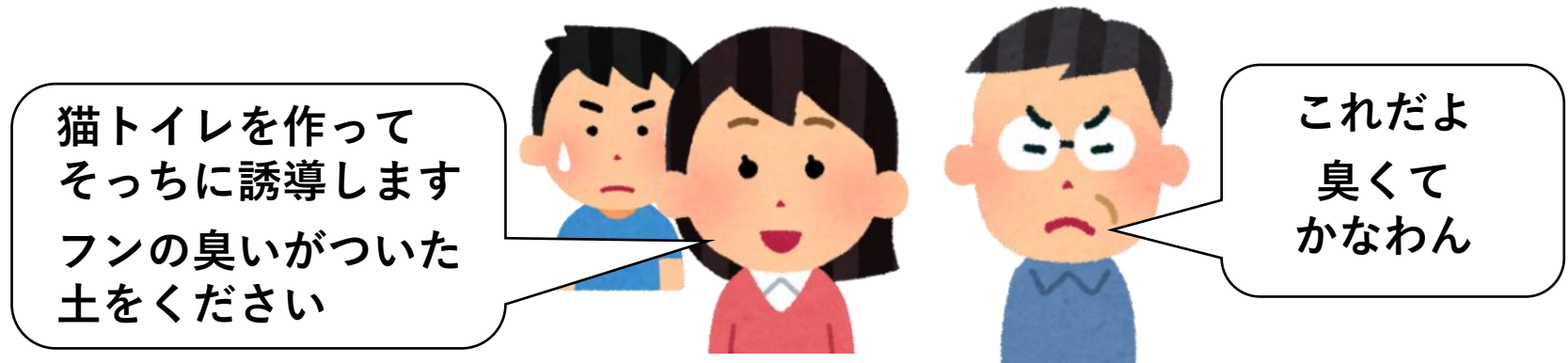


- ・ 一体、何頭の猫が食べに来ているのかさえ、把握できない
- ・ 把握できていない猫が出産する可能性が高い
- ・ **次々と新たな猫を呼び込むので、いくら手術してもきりがない**

**被害対策
と
正しい飼い方の啓発**

11 被害対策

フン被害には、猫トイレが有効（被害者に安心してもらう効果も）



元々の被害場所には、
忌避剤をたっぷり撒いておく

フンをされている場所の土を
フンと一緒に、丸ごと育苗箱に移し替え、
餌場近くの
塀ぎわや軒下などの
隅、角に置く



- ※ トイレの数は、多い方が効果がある
- ※ 最初は「またたび」を混ぜると効果的
- ※ メンテナンスは餌やり者をお願いする

⑫ 地域全体に猫の飼い方のルールを浸透させる

① 完全室内飼育

猫には広い面積は不要 そのかわり高さが必要。
昇り降りできる遊び場と、狭くて落ち着く場所
があれば、室内飼育で問題ナシ。

② 去勢・不妊手術

不要な繁殖は防ぐこと。

③ 首輪・迷子札

外に逃げても、ちゃんと帰ってこられるように。

④ 終生飼養

生涯面倒を見るのは当たり前。家族なんですから。

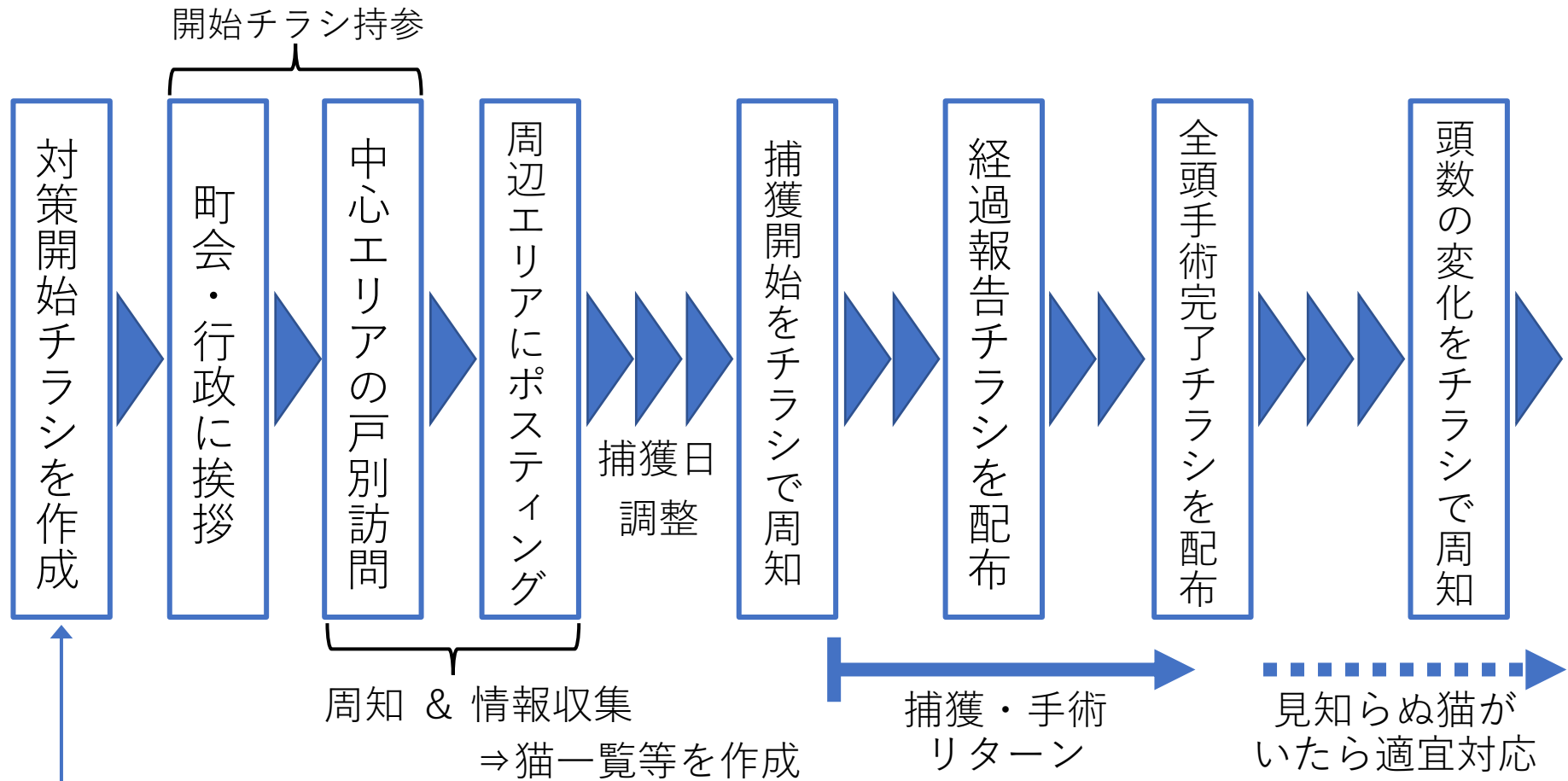


キャットタワーがあれば
室内でも楽しい

注意指導して近隣関係が気まずくなるのは避けたいので…

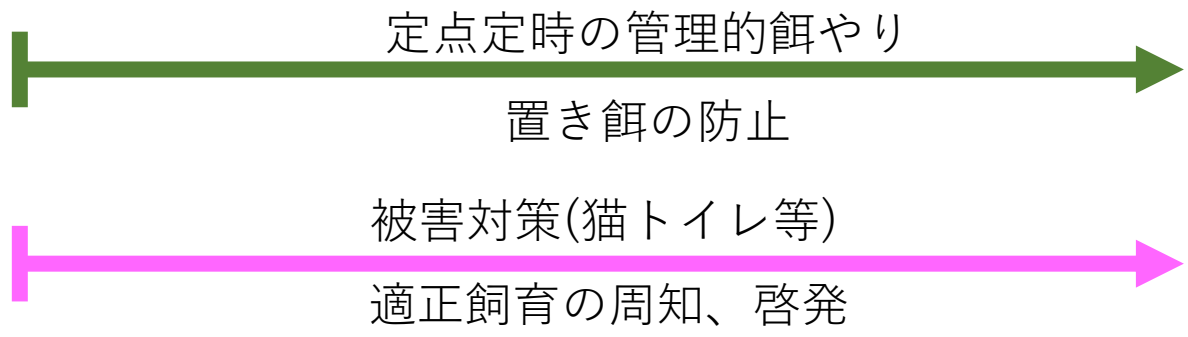
上記のルールを何度も町会回覧、町会掲示板に掲示し、
いい加減な飼い方をしにくい街の空気を作ります

流れをおさらい



町会・自治会で対策する場合は、チラシ作成前に以下を行う

- ① 役員等で話し合い
- ② 町会みんなで話し合い
- ③ 役割分担を決める



成功のポイント

① 地域の人がやるのが基本

そこに住んでいる人が対策するのが基本
外部ボランティアは、育成コーチ

ア 「外部ボランティアにやってもらおう」という
丸投げの発想では、対策は持続しない。

イ 「外部ボランティアの私たちが全てやります」という
丸受けの発想では、対策は持続しない。

② 自宅周りの小さな猫コロニーでやる

そこに住んでいる住民（有志 OR 町会）が、
行政の後ろ盾の下、愛護団体さんの手ほどきを受けながら、
自宅周りの猫コロニーを全頭手術し、見守り体制を整える。
それで十分。

③ 売られたケンカは絶対に買わない

ケンカを売られても、正論で論破してはいけない。
正論を顔面に投げつける行為は、相手を逆上させるだけ。

相手の話を傾聴し、プライドを傷つけない。
どうしても困ったら、その場を逃げる。

誰かと敵対関係になると、
一般市民の協力は得られなくなる。

④ 地域の人に正論を強要しない

無理に正論を押し通すと、地域にしこりが残る。
まずは相手の気持ちを汲み、時には妥協も必要。
人は正論を言う人に従うのではなく、人柄を信用している
人に従う。

正論を振りかざす人は嫌われる。
自分の行動が地域の不満の種にならないように留意。

⑤ 「～ねばならない」とは考えない

「～ねばならない」「～すべき」などと言っていると、皆が楽しくなくなる。

柔軟に「地域の皆が参加したくなる活動」を目指す。

住民参加で対策し、頭数を減らすという基本さえ押さええていれば、あとはユルめに楽しく。

⑥ 他の人の活動方法を批判しない

他人の活動方法を否定するような言動は、絶対に慎む。そのような発言をすると、

「猫活動している人って怖いね」

と一般市民が離れていく。

他の人がどのように活動しようが「放っておく」。自分たちのやるべきことを淡々と行うこと。

「そんな面倒くさいことしなくても猫は減る」

という意見もありますが・・・

エサやりを禁止すれば
ノラ猫は減る！



エサやりしている人が
飼えばいいだけの話！



エサやり禁止するとどうなるか？

「餌やり禁止」よくある流れ

町会掲示板に「餌やり禁止」のチラシ掲示
町会だよりに「餌やり禁止」の記事掲載

餌やり者は、チラシや記事を無視し、
餌やりを続ける

頭数増加に伴って、被害拡大

チラシや町会だよりの内容が、
かなり厳しい書き方になる

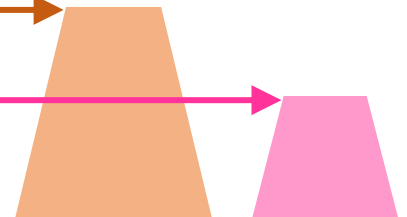
餌やり者と被害者の対立激化
(どちらも引くに引けない)

いつまでも、何年でも
ひたすら揉め続ける

増え続ける猫

地域の限界頭数に達したが
出産は続けている

出産で増えた分だけ
周辺に流出



「餌やり禁止」ごく稀にある流れ

町会掲示板に「餌やり禁止」のチラシ掲示
町会だよりに「餌やり禁止」の記事掲載

餌やり者は、チラシや記事を無視し
餌やりを続ける

地域ぐるみで徹底的な取締り
・ 個別の呼び出し、注意指導
・ 皆で取り囲んで責め立てる
・ 町会だよりに非難文を掲載

地域内の餌やり者ゼロを達成！

迷惑動物を
隣の地域に
押し付けただけ

増え続ける猫

飢えた猫が隣の地域に移動

隣の地域で増え続ける

餌やりしている人に
飼わせたらどうなるか

「餌をやるなら家で飼え」は危険すぎる



急に何頭もの猫を飼うことになる = その人の経済力を超える恐れ

ひとりでたくさんの猫を抱え、どうしたらよいか分からず、

去勢不妊手術が進まずに、宅内で自家繁殖が始まる

数年で **50頭以上** に **多頭飼育崩壊**

「餌をやるなら家で飼え」の間違い

① 「ノラ猫に餌やりする者＝飼い主」なのか？

ノラ猫＝飼い主のいない猫（環境省）＝無主物（民法）

〔民法の考え方〕

（無主物の帰属）

第239条 所有者のない動産は、**所有の意思をもって占有すること**によって、その所有権を取得する。

⇒**裁判では、**

「所有の意思があると見なせるほどに、占有状態であるかどうか」

（給餌、ハウス設置、家に入れている、1日中一緒にいる、など）

を総合的に見て、所有者であるかどうかを判断する。

「餌やりしたら所有者」という単純な話ではない。

- ※ いくら本人が「自分は飼い主ではない」と主張したとしても、餌やりだけでなく、ハウスの設置など飼い主同様の世話をしている、総合的に見て「飼っている」とみなされると、裁判において「飼い主」（＝所有者）と認定される。

2 「猫を飼ってください」の根拠って？

猫を飼うか飼わないかは、**当事者の自由な判断**によるものである。猫の飼育を他人に指示する権利、あるいは、餌を与えたら飼わねばならない義務は、法令上どこにも根拠がない。

3 猫を飼うには

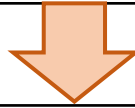
飼う側の経済力、生活空間、健康状態、家族構成などきちんと飼うために必要な条件がある。必要条件を満たさない者に猫を飼わせると、**近い将来に、近隣を巻き込む悲劇**となる。

4 餌やり者が元凶という考えだが そもそも、先にノラ猫がいたから餌を与えたのである

猫がいないのに餌を置く者はいない。ノラ猫が餌をねだれば、一定数の人は餌を与える。それを阻止するのは現実的に不可能。

ノラ猫問題が放置されてきたことが、トラブルの最大の原因。

「餌をやるなら家で飼ってください」と注意



**飼い方も知らないまま、金銭的余裕も無いのに
複数頭を家で飼い始める**



1回目の出産（メス1頭につき4～6頭を出産）



かなりお金がかかるので、少しずつ去勢不妊手術

※ 一刻も早く全頭手術すべきだが、そのような金銭的余裕は無い。



わずか6か月後に2回目の出産（孫猫が誕生）

※ 生後6か月のメスの子猫が、1頭あたり4～6頭を出産

※ もちろん、元の親猫も4～6頭を出産



以降、宅内で爆発的に繁殖していく

※ 繁殖スピードが速すぎて、全く手術が追いつかない。

※ 猫は、親兄弟姉妹関係なしに繁殖する。





多頭飼育崩壊

※ 数年で50頭を超える

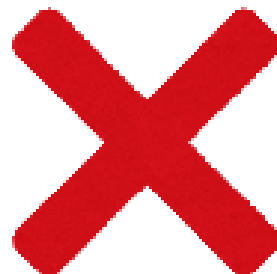
「餌をやるなら飼ってください」などと言うと
後々トラブルなつたときに責任を追及される恐れがある

「あなたに『家で飼ってください』と

厳しく注意されたんですよ。

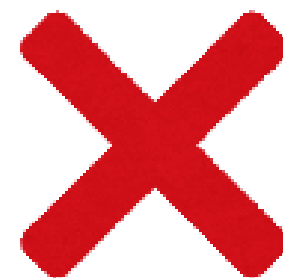
だから仕方なく飼ったんです。」

餌やり禁止



かえって事態悪化

餌をやるなら家で飼え



悲惨な結果

無駄なことは止めて

ちゃんと減らしましょう

保護・譲渡は慎重に

猫の保護・譲渡は、去勢不妊手術して現場に戻すのと異なり、大きなリスクがある

- ・ 病気の検査やワクチンなどの経費が必要
(病気が見つかったら、治療費も)
- ・ 保護猫のお世話に追われ（特に子猫）、ノラ猫対策が滞る
(地域のノラ猫対策ができなくなり、**本末転倒**)
- ・ どれだけ頑張っても、譲渡できない猫が家に残る
(徐々に頭数が増え、**多頭飼育になる危険**)

★ 一旦保護したら「飼い猫」なので、捨てたら「遺棄」

★ 保護しなければ「飼い主のいない猫(=ノラ猫)」

現実問題として、
活動の中で、**子猫を保護するか否か**、
判断せざるを得ない場合が生じる

猫の保護・譲渡活動は、
金銭的、時間的、労力的なリスクが高いので、
活動者各自が、**自分のキャパシティをよく考えて**、
絶対に無理のない範囲で行わねばならない

「可哀そう」との思いからどんどん子猫を家に入れて、
ついに地域猫活動ができなくなったボランティアが多数

保護譲渡活動と地域猫活動との関係性

現状では

「保護すべき猫の数」 > 「飼える人の数」

このままでは保護譲渡活動は永続できない。

せめて

「保護すべき猫の数」 = 「飼える人の数」

程度まで、保護すべき猫の数を減らさないと

保護譲渡活動の未来は無い。

保護譲渡活動が永続できるか否かは、ノラ猫の頭数減にかかっている



地域猫活動（頭数減の対策）は、保護譲渡活動に優先する

動物愛護管理法との関係

「動物の愛護及び管理に関する法律」の目的とは？

環境省のパンフレットより

人と動物の共生する社会の実現を目指して



「動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護管理法)」の対象となる動物は、家庭動物(ペット等)だけでなく、展示動物、産業動物(畜産動物)、実験動物などを広く含みます。

68

人と動物の共生する社会の実現への2つの柱 「愛護」と「管理」

動物愛護管理法は、人と動物の共生する社会の実現を図ることを目的としています。動物の虐待や遺棄を防ぎ、動物の適正な取扱いや動物の健康と安全を守ることを通じて、命を大切にする心豊かで平和な社会を築くとともに、動物をただかわいがるだけでなく正しく飼養し、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害や、騒音や悪臭など生活環境の保全上の支障を防止することを目指しています。

人と動物の共生する社会

動物の愛護

動物の虐待や遺棄の防止
動物の適正な取扱い
動物の健康や安全の保持

動物の管理

動物による人や財産への侵害の防止
生活環境保全上の支障の防止
人への迷惑の防止



法律の**目的**は

人と動物の共生する社会の実現



我々のテーマに置き換えると

人と猫の共生する社会の実現

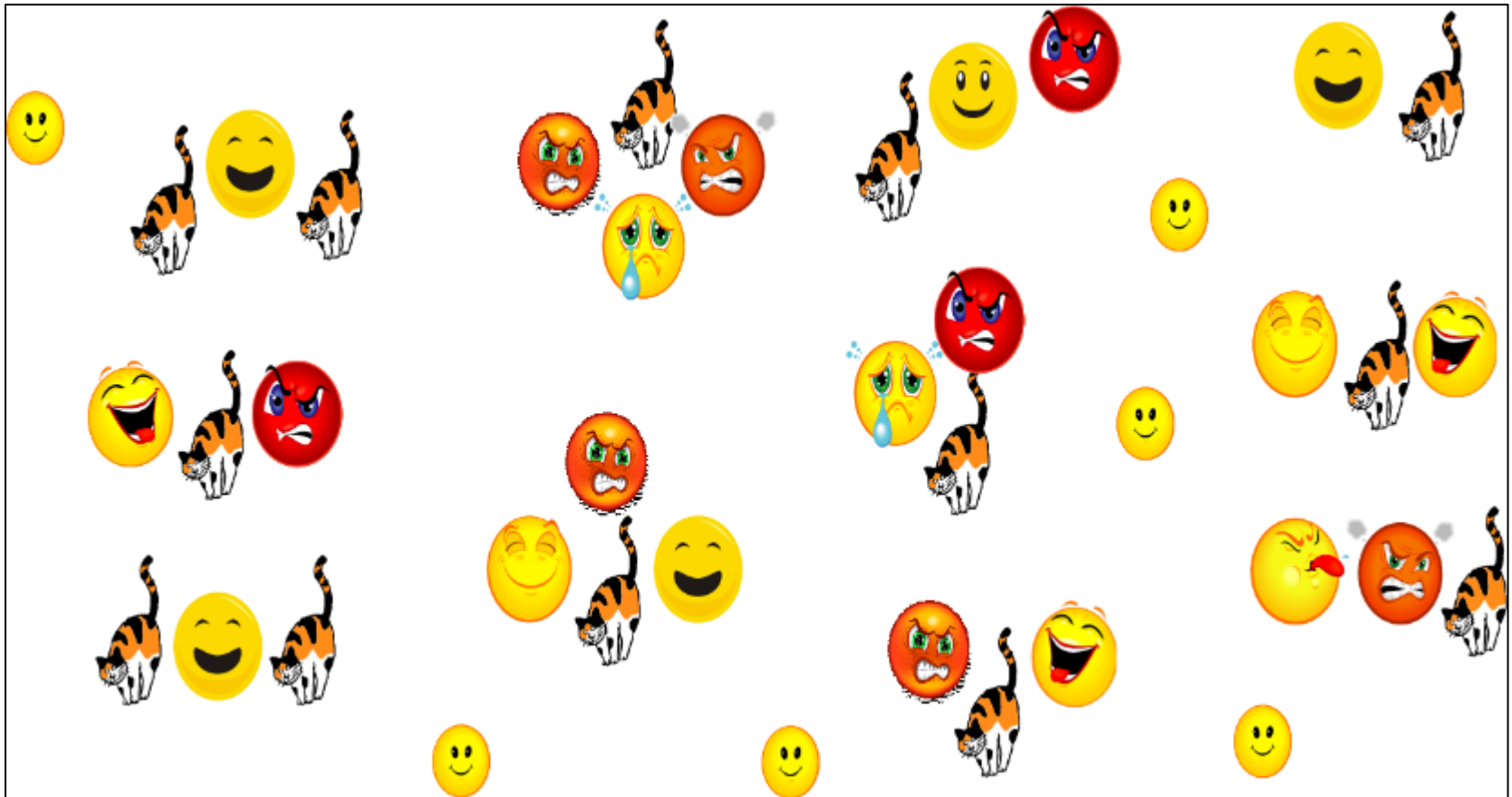


社会 = 人間社会のこと

あたり前だが、法律は「動物の社会」について書いて
いるのではない。

～ノラ猫をめぐる人間社会～

現在はこんな感じ？



笑っている人、怒っている人、泣いている人
無関心な人、様々混在していて、まさにカオス

「地域猫」というときの「地域」の意味

「地域」 = 場所（エリア）・・・×

「地域猫」とは、地域にいる猫のことではない。
それだと「ノラ猫」を呼び変えただけである。

「地域」 = **地域社会（コミュニティ）**・・・○

だから「地域猫」とは・・・

地域コミュニティ と共生している猫

||

地域に住んでいる人々 と共生している猫

地域に住んでいるひとりひとりが本当の意味で
ノラ猫と共生できるようにするには、どうしたらよいか

みんな地域住民

そして

みんなノラ猫のことで
心が不安定な状態

=みんな共生できていない

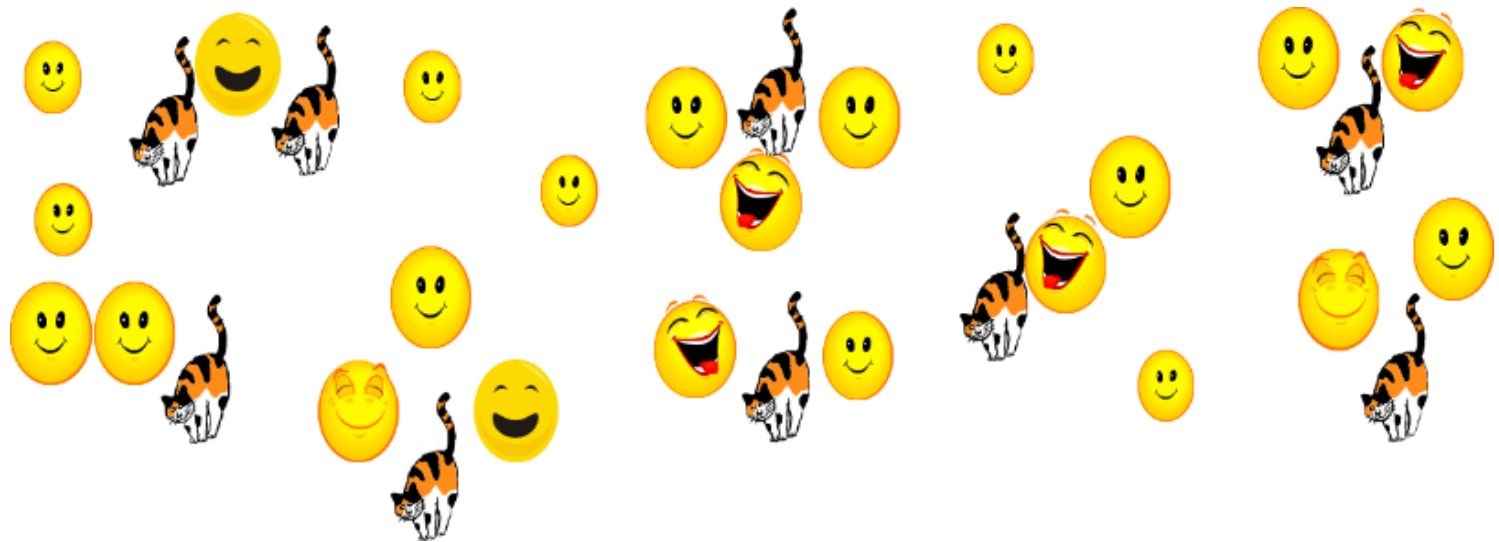
- こそこそ餌を与えて逃げている人
- 餌は与えていないが猫好きで
ノラ猫が心配でたまらない人
- ノラ猫被害に怒っている人
- ノラ猫被害で嘆いている人

「ノラ猫と共生できている地域」とは

地域に住むひとりひとりが
「ノラ猫がいても心が平和な状態」になっている地域

「人と猫の共生する地域社会」を実現するためには
地域のひとりひとりの心に安心を提供するしかない

地域猫活動がめざすのは
ノラ猫がいても
ひとりひとりの心が平和な地域社会
(皆が猫を大切にしている地域社会ではない)



猫好きか、猫が苦手か、どちらでもないのか、そんなのどうでもよい

ノラ猫がいてもひとりひとりの心が平和な地域社会

ノラ猫トラブルのない暮らしやすい地域社会

暮らしやすい地域社会づくりのために

地域のひとりひとりへのアプローチを後回しにすると、対策は決してうまくいかない。

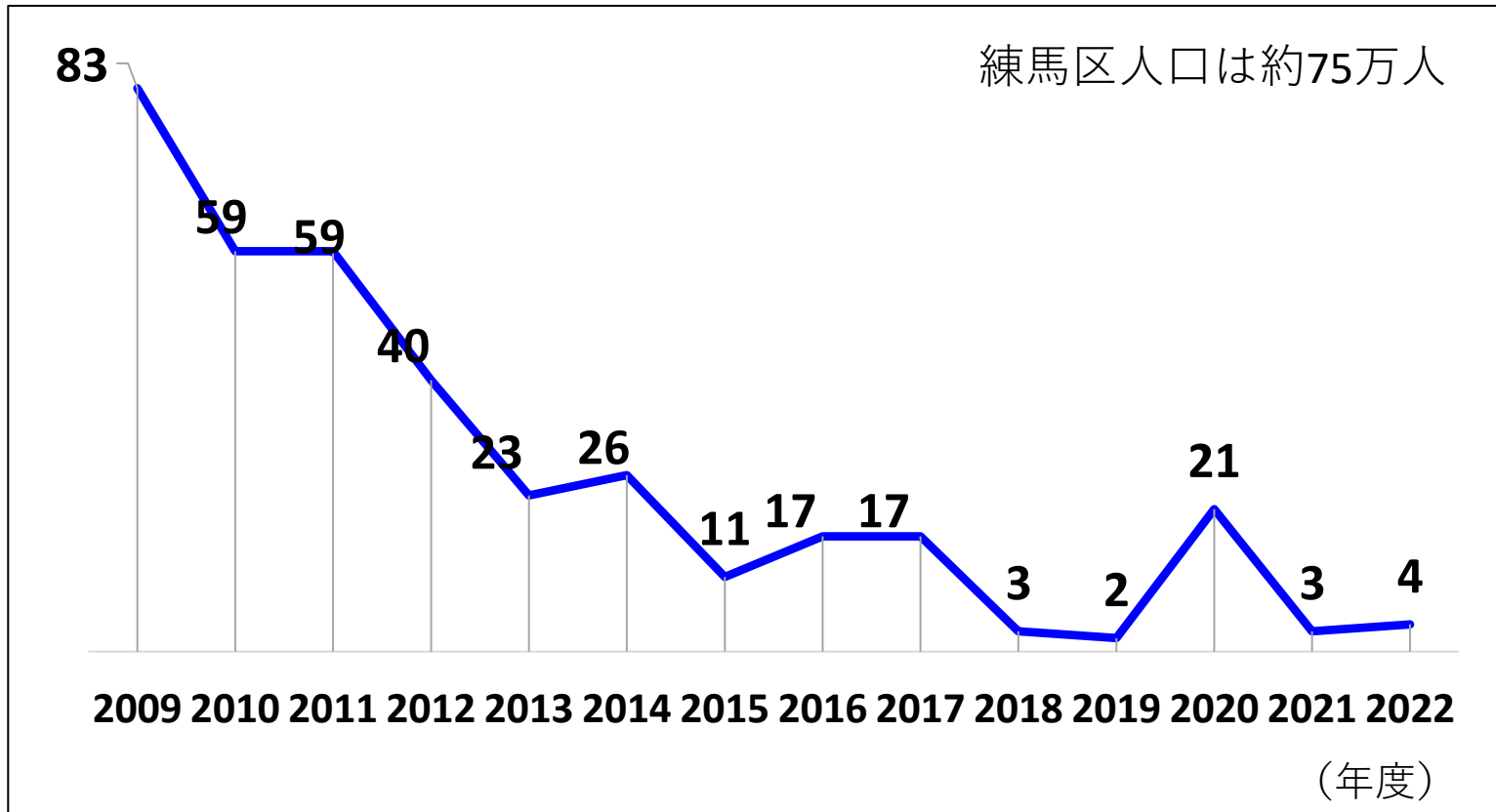
たとえ全頭手術が終わっていても、地域住民が、イライラしたり、悲しんだりしているならば、まるで意味がない。

ノラ猫トラブルのない
暮らしやすい地域社会づくりのために必要なことは

住民の不安を除去し、安心を提供すること
＝ひとりひとりの気持ちに寄り添うこと

実績① センター引取り数の減少

東京都動物愛護相談センターにおける練馬区内からの子猫の引取り数

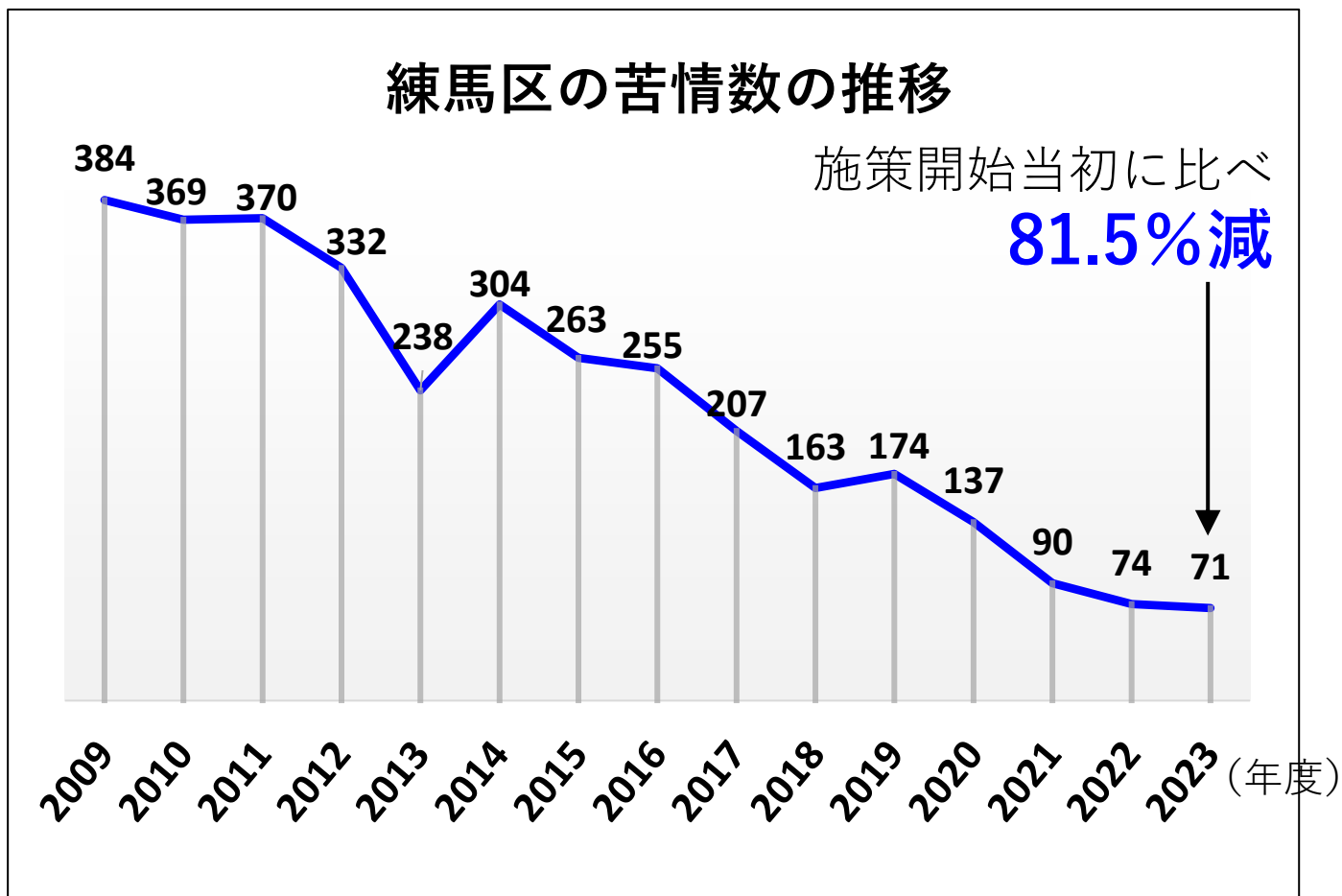


ノラ猫でイライラしない
⇒センターに持ち込まれない



センター引取り数が
減少

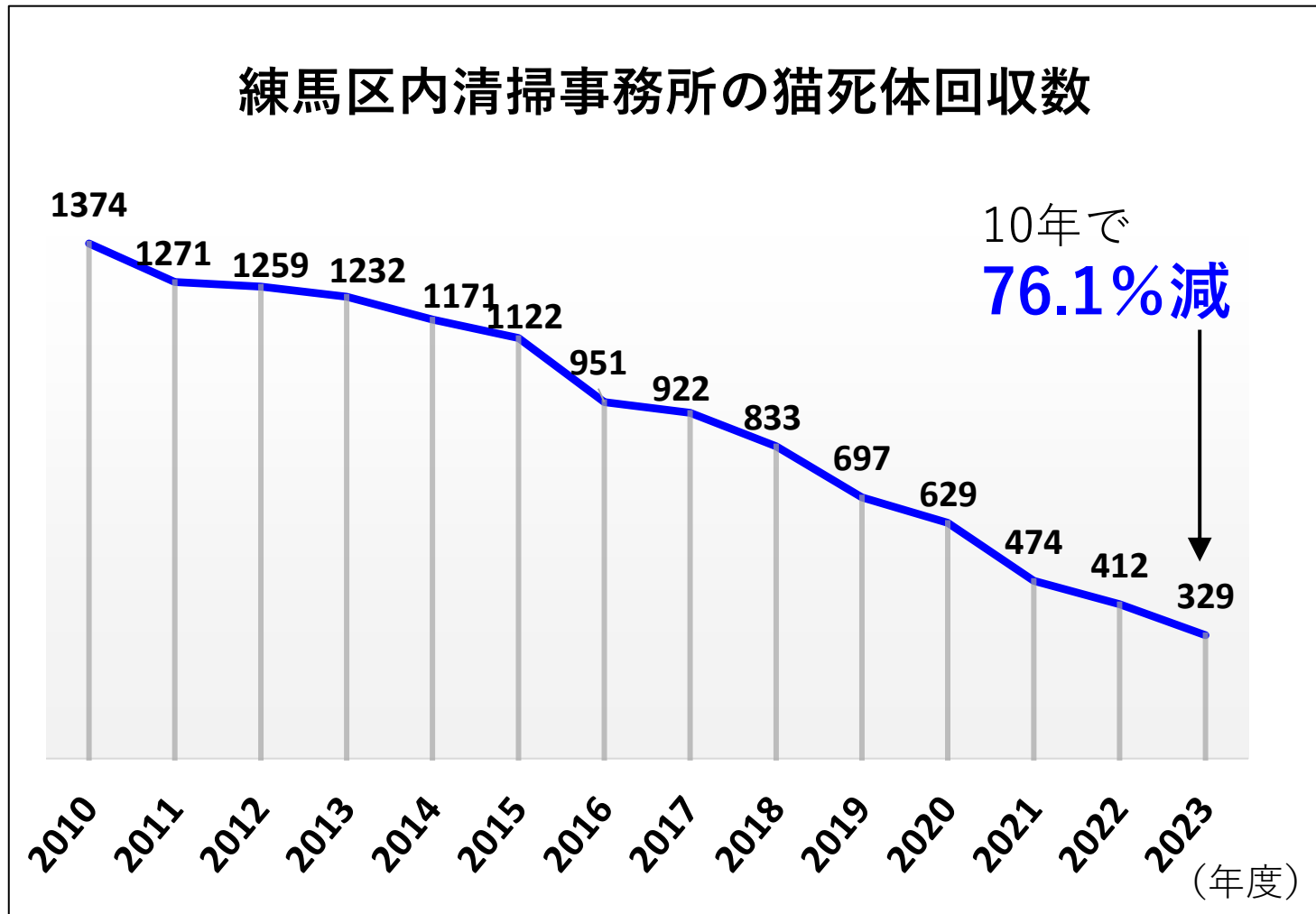
実績② 苦情数の減少



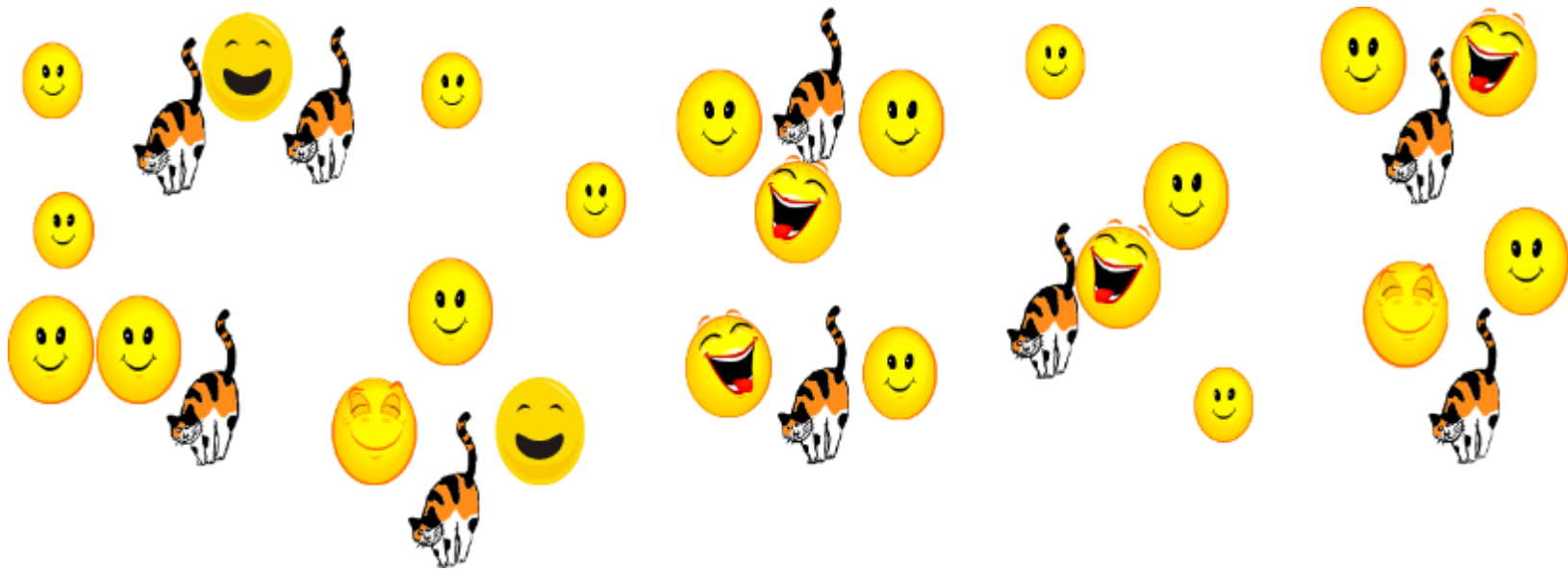
地域猫活動地域からの苦情はとても少ない

なぜなら 戸別訪問やチラシ配布など、
繰り返し、かつ徹底的な地域密着の広報活動により、
対策されていることが地域住民に知られているから

実績③ 猫の死体処理件数の減少



練馬区内のノラ猫の総数が減少していると思われる



- 地域住民によって適正管理
- 怒っている人も悲しんでいる人もいない
- 行政への苦情もない
- 行政に持ち込まれる猫もいない
- おそらく全体数も減少している

動物愛護管理法の目的どおり

**人と動物（猫）の
共生する地域社会**

地域猫活動の定義

- ① 地域の力によって、
- ② 生態を踏まえた合理的な猫被害対策を進め、
- ③ 住民の不安を除去していくことで、
- ④ 猫に対する住民意識を自然な流れで変えていき
- ⑤ 法の目的である「人と動物の共生する社会」を
地域という小さな社会で実現する
- ⑥ 地域密着型の、草の根の市民活動である。

法令の根拠（環境省告示）①

動物愛護管理法に基づく自治体向け指針

環境省 動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針

（最終改正：令和2年環境省告示第53号）

第2 今後の施策展開の方向

2 施策別の取組

(3) 周辺の生活環境の保全と動物による危害の防止

② 講ずべき施策

ア 住宅密集地等において **地域住民の十分な理解の下**に飼い主のいない猫への不妊去勢の徹底や給餌若しくは排せつ物の管理等を実施する地域猫活動の在り方に関し検討を加え、適切な情報発信を行うこと。

この指針における「地域猫活動」の定義

住宅密集地等において **地域住民の十分な理解の下**に飼い主のいない猫への不妊去勢の徹底や給餌若しくは排せつ物の管理等を実施する地域猫活動

法令の根拠（環境省告示）②

動物愛護管理法に基づく 国民向け基準

環境省 家庭動物等の飼養及び保管に関する基準
(最終改正：令和2年環境省告示第21号)

第5 猫の飼養及び保管に関する基準

- 6 飼い主のいない猫を管理する場合には、不妊去勢手術を施して、周辺地域の住民の十分な理解の下に、給餌及び給水、排せつ物の適正な処理等を行う地域猫対策など、周辺の生活環境及び引取り数の削減に配慮した管理を実施するよう努めること。

この基準における「地域猫対策」の定義

不妊去勢手術を施して、周辺地域の住民の十分な理解の下に、給餌及び給水、排せつ物の適正な処理等を行う地域猫対策

「地域猫活動」における 行政の役割

地域猫活動とは

地域のノラ猫問題を
解決するための
住民自身による地域活動

じゃ、行政は何もしてくれないの？

いえ、行政にしかできない役割があります



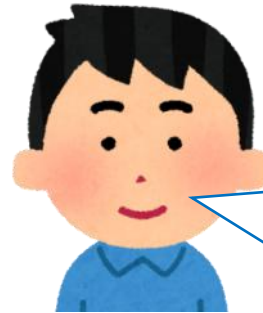
あなた誰？
猫のための活動なら
ウチは協力できないよ



あのお・・・
そうではなくて
地域のため
なのです・・・



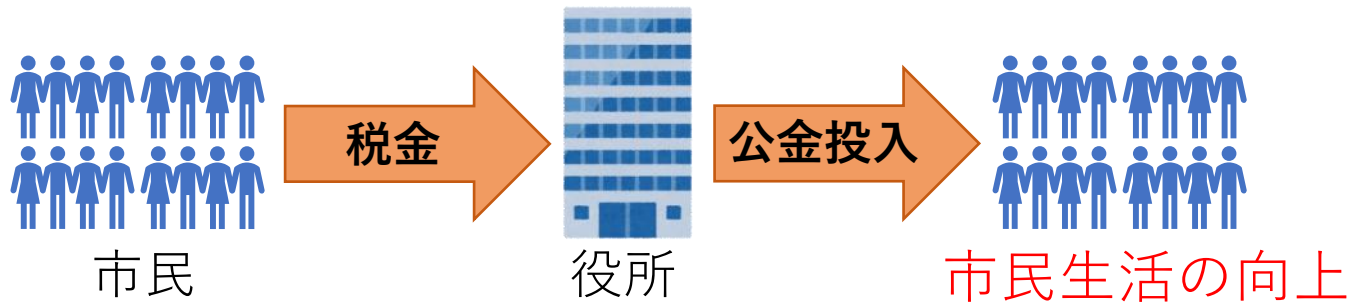
はじめまして
市の方針に従って
ノラ猫対策をしています



へえ・・・、
市の方針ですか
よく分からないけれど
まあ、ご苦労さまです

行政の役割は「**活動の公共性を保証する**」こと
要するに「**行政の信用力を、活動者に貸す**」こと

行政が関わる意味



行政は、**公金**を投入して**市民生活の向上**を図るのが仕事

猫愛護者
猫被害者
その他住民

どの立場の人も
住みよいまち = ノラ猫トラブルのない
住みよいまち = **市民生活の
向上**

これが、行政が地域猫活動に関わる意味（**公共性**）

猫を幸せにするために公金（みんなのお金）を投入しているのではない
(ただし、地域猫活動によって、**結果的に**猫も人間と共生できるようになる)

最後に

愛猫家の方へ①

「猫の命を守りましょう！」

= 地域共通の価値観にはなり得ません

愛護の気持ちが前面に出ると

ディープな活動の雰囲気に・・・



一般住民（サイレントマジョリティ）の理解が得られない

愛護の情熱は心の内に秘めるのがコツ

自動車にたとえるなら

愛護の情熱 = エンジン

被害対策 = ボディー（外見）



愛猫家の方へ②

「わたしが猫を守ります！」

ではなくて

「猫が地域住民から嫌われないようにしよう」

と考える

- ① 住民に安心を提供すると・・・
- ② 猫を見る住民の目が
少し変わる（殺気が減る）
- ③ 人の目が変わったのを感じた猫は、
安心して可愛らしい姿を見せ始める
- ④ 猫が徐々に地域の人に
受け入れられていく

猫の魅力を信じましょう



愛猫家の方へ③

「わたしが猫を守ります！」

ではなくて

「猫が地域住民から嫌われないようにしよう」

と考える



まずは、活動者自身が、地域の人に嫌われないように
すること

地域で「浮いている」人の活動を、
一体誰が協力するだろうか？

猫が嫌われ者にならないために

愛猫家として

あなたはなにができますか

人と猫が共生できるかどうかは、

愛猫家である「あなた」の行動に

かかっています

愛猫家以外の方へ

必要なのは、問題解決に向けた合理的思考です

猫好き
猫被害者
どちらでもない

立場の違い
価値観の違い
熱意の違い

自分と相手の
考えの違いを埋める必要は全くない
(猫に対する考えは、決して一致しない)

間違いなく言えることは

対策をしないと、恐るべき速度で事態は悪化する、ということ

合理的に考え、立場を超えて連携し、手早く対策しましょう

どんな立場の人も、ノラ猫だらけの状態は良くないと思っている

そこが（そこだけが）一致点

ノラ猫の数を減らすため、協力しましょう

現実的に必要なこと

これまでお話ししたことを**現実のものにするために**
具体的に何が必要なのか

① 安価で去勢不妊手術ができること

- ・ 市民による対策を推進する上で、お金の問題は極めて重要

② 捕獲器を借りることができること

- ・ 捕獲器を借りられないと、市民は対策できない

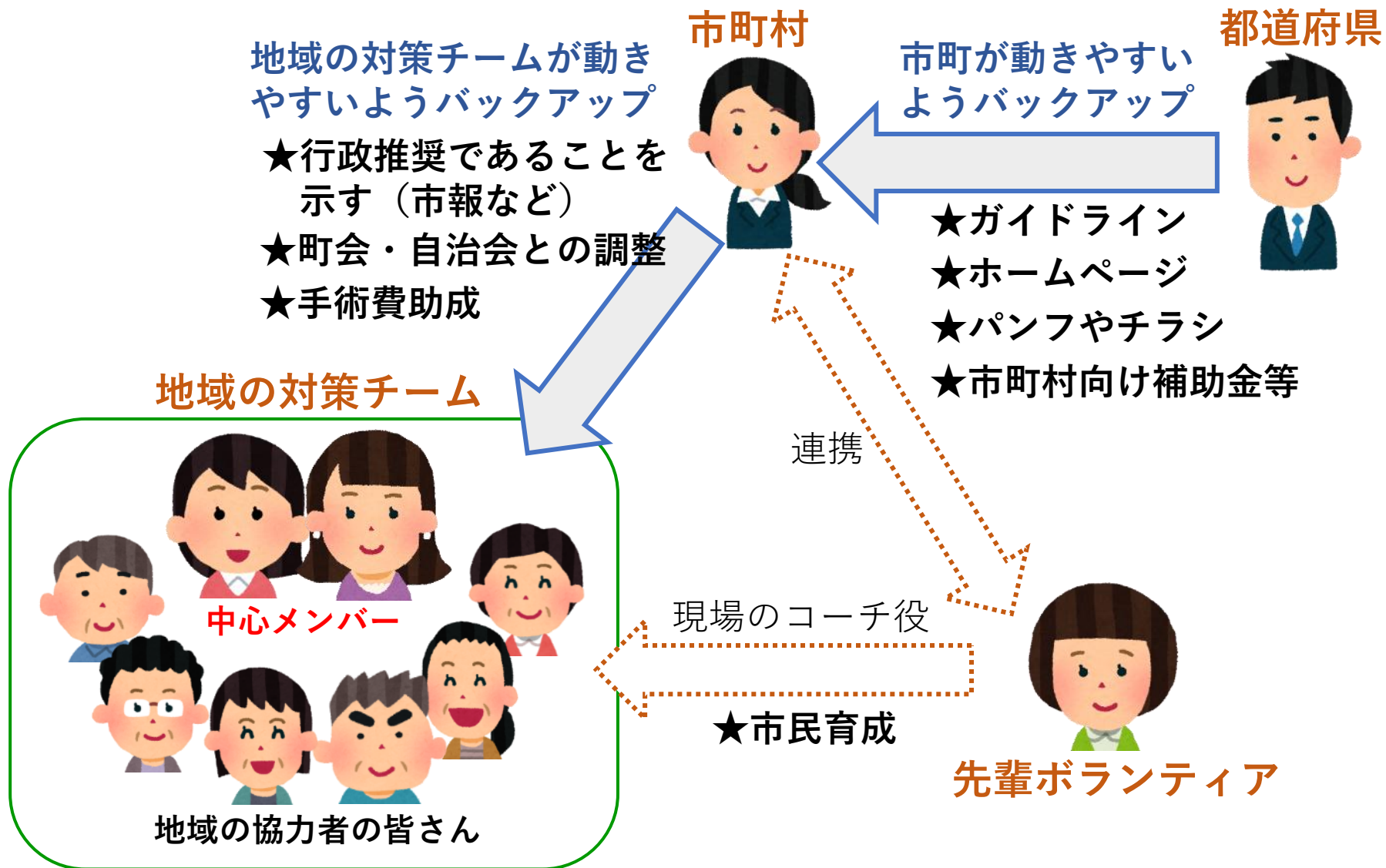
③ 行政による広報、周知、調整

- ・ 行政がきちんと広報すると、その信用力によって着実に広まる
特に、現場で使える行政チラシは、信用力の点で効果大
- ・ 行政が町会等にしっかり周知したり、町会等との調整をすると、
市民が町内でスムーズに対策できる

④ 分かりやすいマニュアルと、現場の育成コーチ

- ・ 誰でもできるよう、初心者でも理解できるマニュアルが必要
- ・ 現場のコーチ役として先輩ボランティア（団体）も必要〔市民育成〕

適切な役割分担が成功の秘訣



地域の問題地域で解決

小規模ボランティア（地元住民）を数多く 「対策方法を知っている普通の市民が至る所にいる」状態を目指す



先輩ボランティアはコーチ役 = 市民を育成

限られたボランティアが背負うのではない

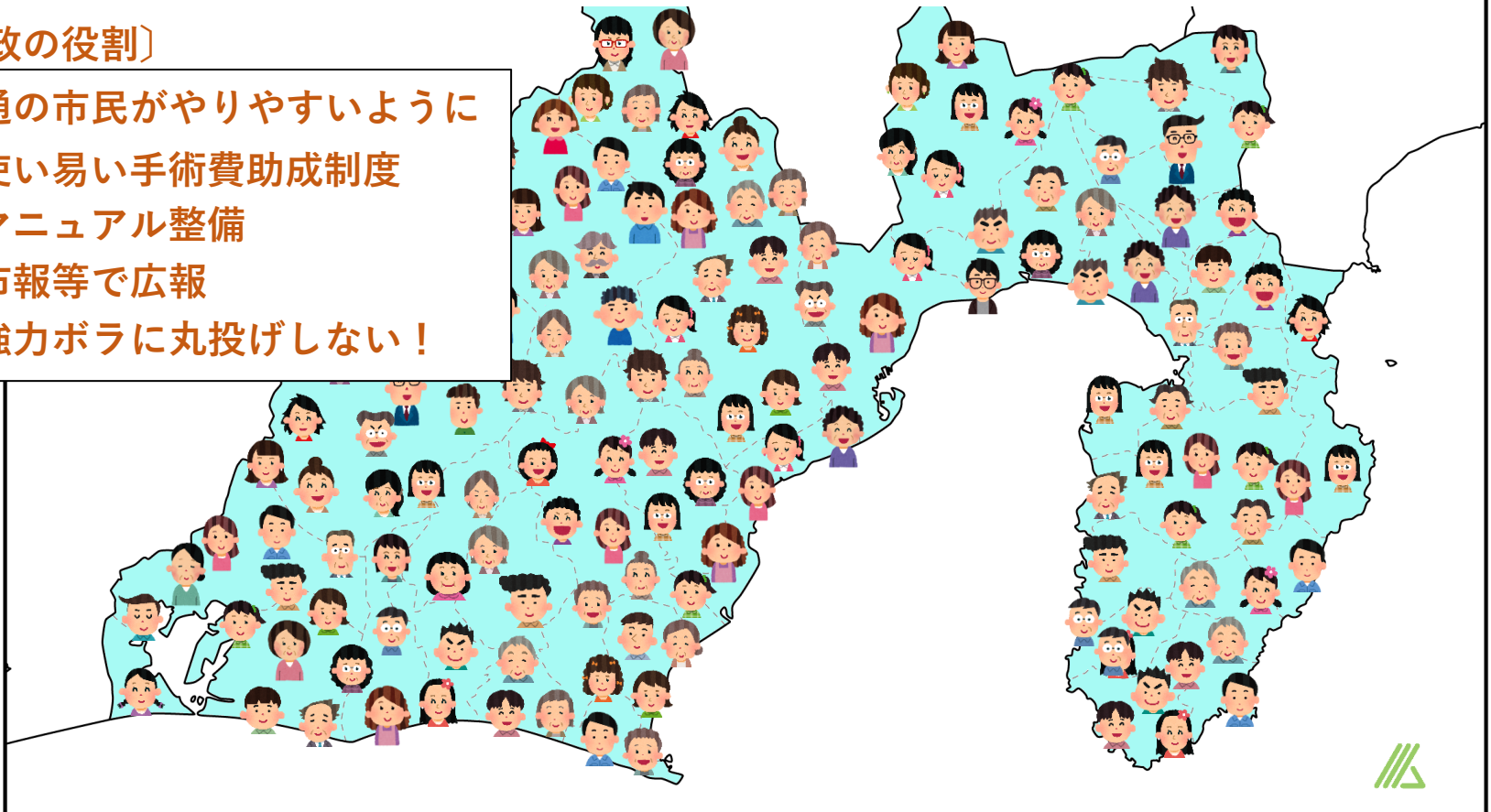
「私がやらなきゃ」ではなく「できる市民を増やさなきゃ」

これが持続可能な
野良猫対策

〔行政の役割〕

普通の市民がやりやすいように

- ・ 使い易い手術費助成制度
- ・ マニュアル整備
- ・ 市報等で広報
- ・ 強力ボラに丸投げしない！



サンプルのチラシなど
各種資料はこちらから
ダウンロードできます

